



Miyuki Iwamura

岩村みゆき 議員

Q・子宮がん、乳がん検診のさらなる推進を

A・今後も同様の方法で行っていく

Q 子宮がん、乳がん検診の受診率の推移は。

A 生活福祉部長
子宮がん検診の受診率は平成26年度が17.7%、27年度が18.5%、28年度が19.5%である。乳がん検診マンモグラフィの受診率は平成26年度が27.6%、27年度が31.3%、28年度が31.0%である。

Q 若い方への推進をどう考えているか。

A 生活福祉部長
近年、若年層で子宮がん、乳がんの罹患が増加していることから、非常に重要と考えている。無料クーポンを子宮がん検診は20歳・30歳に、乳がん検診は40歳・50歳の方に配布している。

Q 啓発品を配布してはどうか。

A 生活福祉部長
乳がん検診者全員に、自己検診法記載のパンフレットを配布。また、3才児健診時に、子宮がん検診、乳がん検診のセルフチェックができるパンフレットを配布している。

Q ワンコイン検診を実施してはどうか。

A 生活福祉部長
受診率がこの数年上がってきており、今後も同様の方法で行っていく。

Q・小型家電リサイクルで東京オリンピックピックのメダルを

A・回収方法など検討を行う

Q 現在、東京オリンピックピックに向け、携帯電話などの小型家電からメダルをつくる、「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」が行われているが、豊山町の状況は。

A 生活福祉部長
東京オリンピックピック・パラリンピック競技大会組織委員会が主催するこのプロジェクトは、県内10自治体がすでに回収を始めています。本町については、持続可能な循環型社会の実現を目指すプロ



▲メダルがいくつできるかな